

各教科等を合わせた指導に関する研究

(特別支援教育部 鋒山智子、野田基子、小林利恵子)

要約

本研究では、知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校及び特別支援学級において、教育課程に位置づけることができる「各教科等を合わせた指導」について検討した。府内の特別支援学校 11 校及び山城教育局の小学校・中学校から各 1 名ずつ研究プロジェクトメンバーとして集め、「各教科等を合わせた指導」の課題及び課題解決につながる検討を進めた。各校の「各教科等を合わせた指導」の課題の検討を進める中で、「各教科等を合わせた指導」の捉えを明確にするための研修及び各校で取り組まれている「各教科等を合わせた指導」の授業について共有し、研究を進めた。

これらの研究内容を「各教科等を合わせた指導ガイドブック」として作成し、府内の特別支援学校及び特別支援学級に向けて配布することで、各校の担当者が活用することを目指した。

キーワード：各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習）、考慮する点、授業づくり

1 各教科等を合わせた指導とは

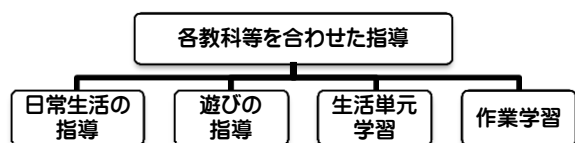
学校教育法第 72 条には、「幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする」と特別支援学校の目的が規定されている。

知的障害のある子どもたちが在籍する特別支援学校及び特別支援学級においては、A～D 段階で発達を示し、各学校の教育目標に照らし合わせ、個々の教育的ニーズに応じた教育課程を編成している。

「各教科等を合わせた指導」は、知的障害のある子どもの教育の独自の指導形態であり、知的障害の特性を踏まえた効果的な指導である。児童生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとされている。

知的障害のある児童生徒の教育課程は、児童生徒の障害の状態等に即した指導を進めるために、「教科別の指導」「領域別の指導」「各教科等を合わせた指導」（学校教育法施行規則第 130 条第 2 項の規定）の 3 つの指導を適切に組み合わせた構成となっている。

「各教科等を合わせた指導」の代表的な形態としては、「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」、「作業学習」として実践されてきている。



障害のある児童生徒は、学習によって得た知識が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功体験が少ないことなどにより、主体的に取り組む意欲が十分に育っていないこと、実際的な生活経験が不足しがちであることから、实际的・具体的な内容の指導が必要である。こうしたことから、特別支援学校及び特別支援学級では、「各教科等を合わせた指導」が重視されている。

教育課程編成届出書によると、京都府のすべての特別支援学校において、時間数の差はあるが、「各教科等を合わせた指導」が実施されており、「各教科等を合わせた指導」を中心に教育課程を編成している学校も見られる。

2 方法

本研究では、研究助言者として佛教大学教授菅原伸康氏を招聘し、特別支援学校及び山城教育局管内の小学校・中学校から1名ずつを依頼し、13名の研究協力員を集めた。

知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校及び特別支援学級における「各教科等を合わせた指導」の現状及び指導の実際を把握し、各校の課題を明らかにし、分析を進めた。

京都府としての課題を明らかにした上で、研究協力員を対象に学習指導要領の見直し、菅原教授による「各教科等を合わせた指導」の知見や全国的な取組等などの研修や情報収集を通し、「各教科等を合わせた指導」の捉え直しを進めた。

その上で、研究協力員が実際に行っている「遊びの指導」と「生活単元学習」の授業をサンプルとして挙げ、学習指導要領で示された「考慮する点」を参考に授業検討を進め、そのサンプルの授業及び検討内容を「各教科等を合わせた指導」の授業モデルとし、これらを府内に発信することを目的とした。

3 課題の分析

府内の特別支援学校、山城教育局の小学校・中学校から研究協力員が担当している学部・学級の週程表及び学習指導案等を参考に、「各教科等を合わせた指導」の指導の実際について交流を行った。

交流後に、自由な発想で課題をできるだけ多く挙げてジャンル分けを進め、キーワードごとに課題をまとめて分析を進めた。

研究協力員からは、

- ・実際の教育課程と「各教科等を合わせた指導」の運用との整合性
- ・教育課程の概要にはない学校独自の枠組みでの運用
- ・「各教科等を合わせた指導」の教育課程上の曖昧な位置づけ
- ・「各教科等を合わせた指導」において、踏まえなければならないポイントのわかりにくさ



等の具体的な課題が挙げられた。各校において「各教科等を合わせた指導」についての共通理解が難しいとともに、独自の考えで「各教科等を合わせた指導」を展開している学校も見られる現状が明らかになった。

また、京都府が歴史的に大切にしてきた視点や次世代に伝える視点を融合させた「各教科等を合わせた指導」を確立していく必要性がまとめられた。これらの課題を受け、

ア 「各教科等を合わせた指導」の理解

イ 「各教科等を合わせた指導」の授業モデルの発信

の2点について、研究をとおしてまとめることとした。

4 研究内容

(1) 「各教科等を合わせた指導」の理解

府内の特別支援学校のほとんどでは、特別支援学校教諭免許状を保有しているものの、京都府全体で特別支援学校及び特別支援学級において世代交代の時期であることが影響し、特別支援教育に携わった経験年数が少ない教諭が多い傾向にある。したがって、学習指導要領を参考に知的障害の理解を促す情報発信が必要であると考えた。

学習指導要領によると「知的障害を踏まえた効果的な指導である」と示してあるが、「各教科等を合わせた指導」が教育課程上に位置付けられているものの、実際どのような授業を「各教科等を合わせた指導」で行えばよいのか分かりにくいという課題が挙げられた。その現状から、「各教科等を合わせた指導」の目的を明確にし、府内全体に捉え直しを図る必要があると考えた。

そこで、学習指導要領の中で、「各教科等を合わせた指導」に関連する内容を抽出し、まとめた内容を「各教科等を合わせた指導ガイドブック」として作成した。

(2) 授業モデルの発信

「各教科等を合わせた指導」の課題の分析から、「各教科等を合わせた指導」とはどのような授業なのかという具体的な授業像を京都府全体で共有する必要があると考え、研究協力員が授業モデルを発信するための検討を進めた。

ア 授業プレゼンテーション

研究協力員が各校で実際に取り組んでいる生活単元学習と遊びの指導の授業サンプルを持ち寄り、事前に記入したワークシート(表1)を参考に授業の様子をビデオ

授業名	
各教科等を合わせた指導	
こんな子どもたち	どういった子どもたちになってほしい
単元の目標	
本時の目標	
授業の流れ	

表1：授業サンプルワークシート

オを活用しながらプレゼンテーションを行った。

イ 「考慮する点」を参考にした授業検討（表2；授業検討での活用ワークシート）

「考慮する点」を踏まえた授業検討では、授業改善の工夫や新たなアイデアを有することができた。

生活単元学習考慮する点	
児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際・総合的に学習するもの。	
①実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するもの。	
②必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身につけた内容が生活に生かされるもの。	
③児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動を含んだもの。	
④一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるもの。	
⑤各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成熟に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるもの。	
⑥豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること。	

遊びの指導考慮する点	
遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくもの。	
①児童が遊ぼうとする場の設定。	
②教師と児童、児童同士の関わりを促すことができるよう、場の設定、 □教師の対応、道具等の工夫。	
③身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れる。	
④遊びをできるかぎり制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮し、 □塵じつ、安全に遊べる場所を設定。	
⑤自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びの □に誘ったりして、色々な遊びが経験できるように配慮して、遊びの □楽しさを味わえるようにする。	

平成25年度京都府総合教育センター研究プロジェクト「各教科等を合わせた指導に関する研究」

表2：授業検討での活用ワークシート

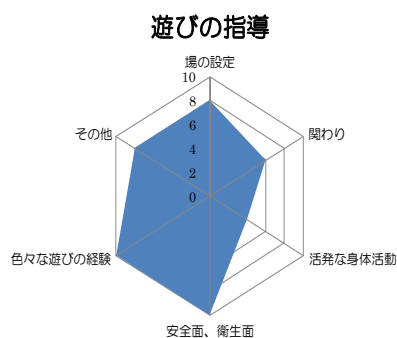
<研究協力員の感想>

- ・授業モデルを整えていくにあたり、「どのような子に」「どんなねらいをもって」というところがはっきりしていなければいけないと思います。
- ・子どもの状態に幅があってもできるということで、個々の子どもがどんな課題で、どう頑張っていて、どう成長したかが曖昧にならないようにしなければいけないと思っています。
- ・生活単元学習の中で、行事の練習に取り組むという授業モデルをきかせてもらい、自校でも考えていきたいと思いました。

授業の特徴を明確にするために、考慮する点の項目の大きさに一見して比較できるレーダーチャートを作成した。

考慮する点を項目として、それぞれの授業モデルについて「各教科等を合わせた指導」の特徴を検討した。

授業モデルとしてアピールできる考慮する点の項目から点数化し、その点を基準にその他の考慮する点の項目について点数化した。あくまでも授業の特徴を表すレーダーチャートを作成することをねらいに、授業者の自己評価を中心に、点数化を進めた。



以上のステップで、授業検討を進め、検討された内容を含めたシートを作成し、それを授業モデルとして「各教科等を合わせた指導ガイドブック」に組み込んだ。

参考 授業モデル

	指導の形態	授業名	児童生徒
1	遊びの指導	ゆうびんはいたつのホネホネさん	小
2	遊びの指導	なつまつり	小
3	遊びの指導	新聞紙で遊ぼう	小
4	遊びの指導	おみこしワッショイ！	小・中・高
5	生活単元学習	スポーツフェスタ2013	小
6	生活単元学習	のりものらんどをひらこう	小
7	生活単元学習	ゆうびんやさんになろう！	小
8	生活単元学習	クリスマスツリーを作って、販売しよう	中
9	生活単元学習	学園文化祭（太鼓）の発表に向けて	中
10	生活単元学習	高校生の交流会を盛り上げよう	高
11	生活単元学習	全校たてわり活動	高
12	生活単元学習	みんなを助けるテレビ番組を作ろう（火事・洪水・地震）	高

5 今後に向けて

本研究において、「各教科等を合わせた指導」の課題を明確にした。課題を受けて、「各教科等を合わせた指導」の理解を進め、各校で実際に取り組みられている授業をサンプルに、学習指導要領で示してある「考慮する点」を踏まえて検討を進め、授業をモデル化した。

これらの研究から、「各教科等を合わせた指導ガイドブック」として作成し、府内の特別支援学校及び特別支援学級に向けて配布した。

この「各教科等を合わせた指導ガイドブック」により、特別支援教育に携わった経験年数が少ない教諭や若手教諭等の知的障害に関する理解が進むとともに、自立と社会参加を目指した授業の充実に役立てられればと考える。

今後の課題としては、

- ・「各教科等を合わせた指導」は教育課程上の位置づけが曖昧になっているためわかりにくい。
- ・各校の独自性があっても、名称等を明確にすることで、学校同士が実践を高め合えるのではないか。

の2点は研究協力員の特徴的な意見である。

これらの言葉が意味することを十分に踏まえ、「各教科等を合わせた指導」の教育課程上の位置づけを明確にするための研修の企画を行い、府内の特別支援学校同士だけではなく、特別支援学級ともつながりを広げていけるよう、今後役割を担いたいと考える。

参考文献

- ・特別支援学校 幼稚部教育要領
- ・特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領
- ・特別支援学校 高等部学習指導要領
- ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）
- ・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- ・特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編
- ・改訂学習指導要領準拠 特別支援学校新教育課程編成の手引 大南英明編
- ・特別支援学校における領域・教科を合わせた指導の充実にに関する研究 岩手県立総合教育センター
- ・特別支援学級経営の手引（25年度版）岩手県立総合教育センター
- ・特別支援教育指導資料第21集・第22集・第24集 群馬県総合教育センター・特別支援教育センター
- ・特別支援学級（固定学級・通級による指導）教育課程編成の手引 東京都教育委員会
- ・特別支援学校の魅力ある授業づくり（平成23・24年度随時作成） 静岡県総合教育センター
- ・特別支援学級担任のためのハンドブック 岡山県総合教育センター
- ・特別支援教育の基礎・基本一人一人のニーズに応じた教育の推進 国立特別支援教育総合研究所